

中国 SU-30MK2 戦闘機が頻繁に日本を威嚇

漢和防務評論 20130122

KDR バンコク特電：

2012 年 9 月から 10 月にかけて、尖閣諸島（中国名釣魚島）問題が激化すると同時に、中国軍は SU-30MK2 の写真を頻繁に公開し日本を威嚇した。このことから中国海軍はこの多用途戦闘機を極めて重視していることが分かった。この戦闘機は 2012 年 7 月から頻繁な活動を開始した。当時東京都が尖閣諸島を購入しようとしていた。

本誌は、かつて肥東に駐屯していた SU-30MK2 が寧波に移駐したことを報道した。この移駐は 2011 年に完了した。寧波の最新の衛星写真は SU-30MK2 がすでに寧波に移駐したことを証明している。中国は、SU-30MK2 を移駐させるために、2007 年から寧波軍用飛行場を改修し、24 個の強化型格納庫を建設した。2011 年 5 月 31 日の衛星写真を見ると、15 機の SU-30MK2 がエプロンに駐機している。

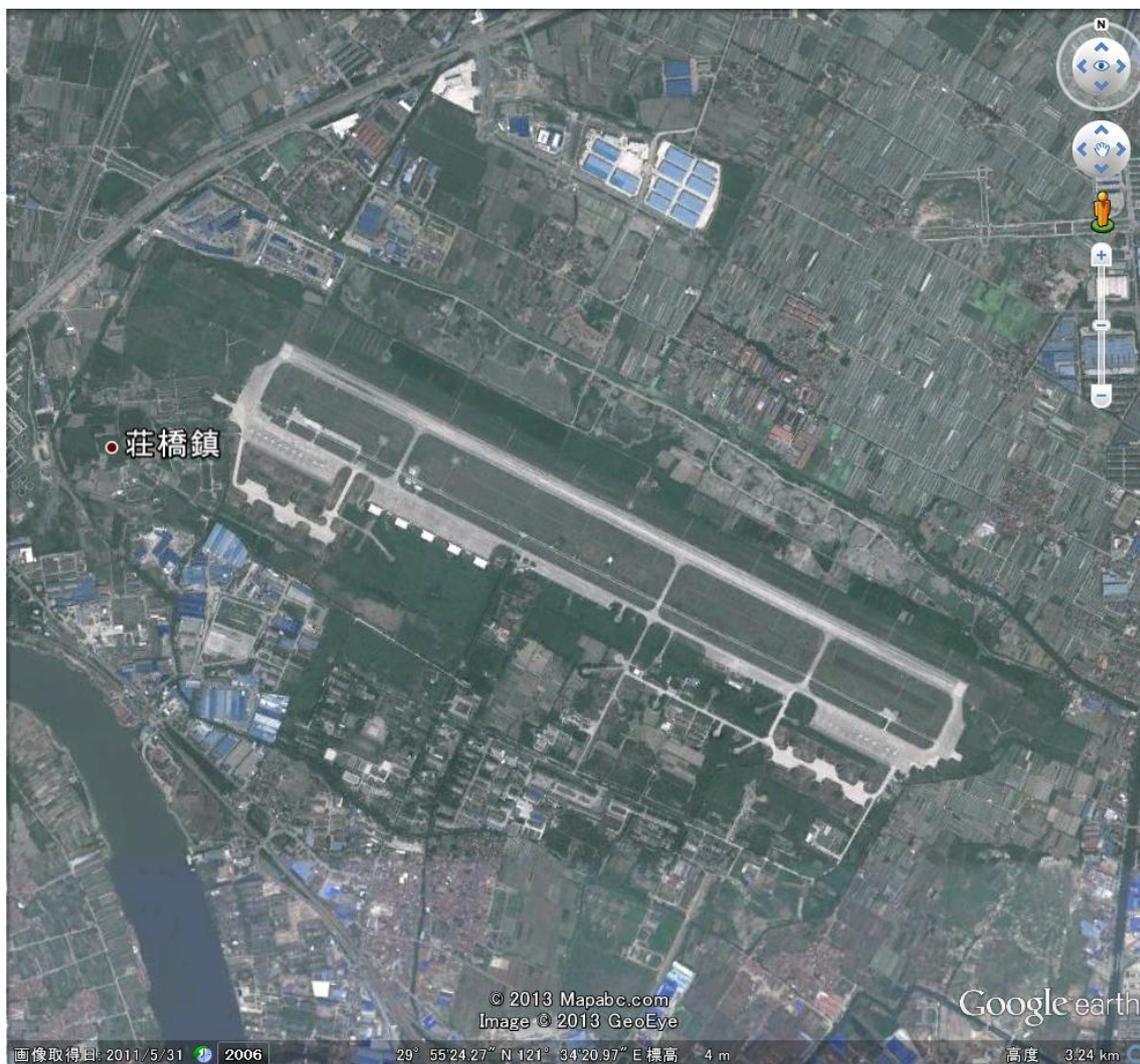
また飛行場には、5 個のヘリ用格納庫が建設され、各格納庫には 2 機のヘリが入っている。このヘリは、海軍航空兵第 4 師団第 10 連隊所属の救難用ヘリである可能性が高い。海軍航空兵の師団の中で直属のヘリ部隊を保有している師団は極めて少ないので、海軍の SU-30MK2 重視の度合いが分かる。可動率維持の点から見ても、SU-30MK2 が海軍航空部隊の虎の子であることが分かる。地上に駐機している間、エンジン部分は覆われている。IRST（赤外線探測システム）も同様に覆われている。空軍の J-11 型戦闘機（中国版 SU-27）の扱い方とは大きく異なる。中国は、ロシアのウラル光学機器工場で生産された IRST 部品を多数購入しており、この部品の寿命が短いことに不満を述べていた。このためスホーイ設計局の高級官員は KDR に対し何度も次のように述べた：我々は、ロシア戦闘機のチェックリストに従って、平時は IRST に覆いをかけるよう中国側に何度も説明した。” 貴方方の購入したロシア製戦闘機を見なさい。いつも日光や風雨に曝しているではないか。これでは寿命が短くなるよ” と。

寧波飛行場は海軍航空部隊にとって最良の飛行場と言われており、6 個の強化型格納庫が滑走路の端に建設されている。同連隊は、6 機の SU-30MK2 を 5 分待機につけていることは明らかだ。

中国向け SU-30MK2 は、ロシア側が性能に制限を加えているとはいうものの、R-77 型空対空ミサイル、射程 70KM の X-31A 型空対艦超音速ミサイル、射程

110KM の X-31P 型対レーダーミサイルを搭載できる能力がある。

以上



寧波飛行場



SU-30MK2 と強化型格納庫